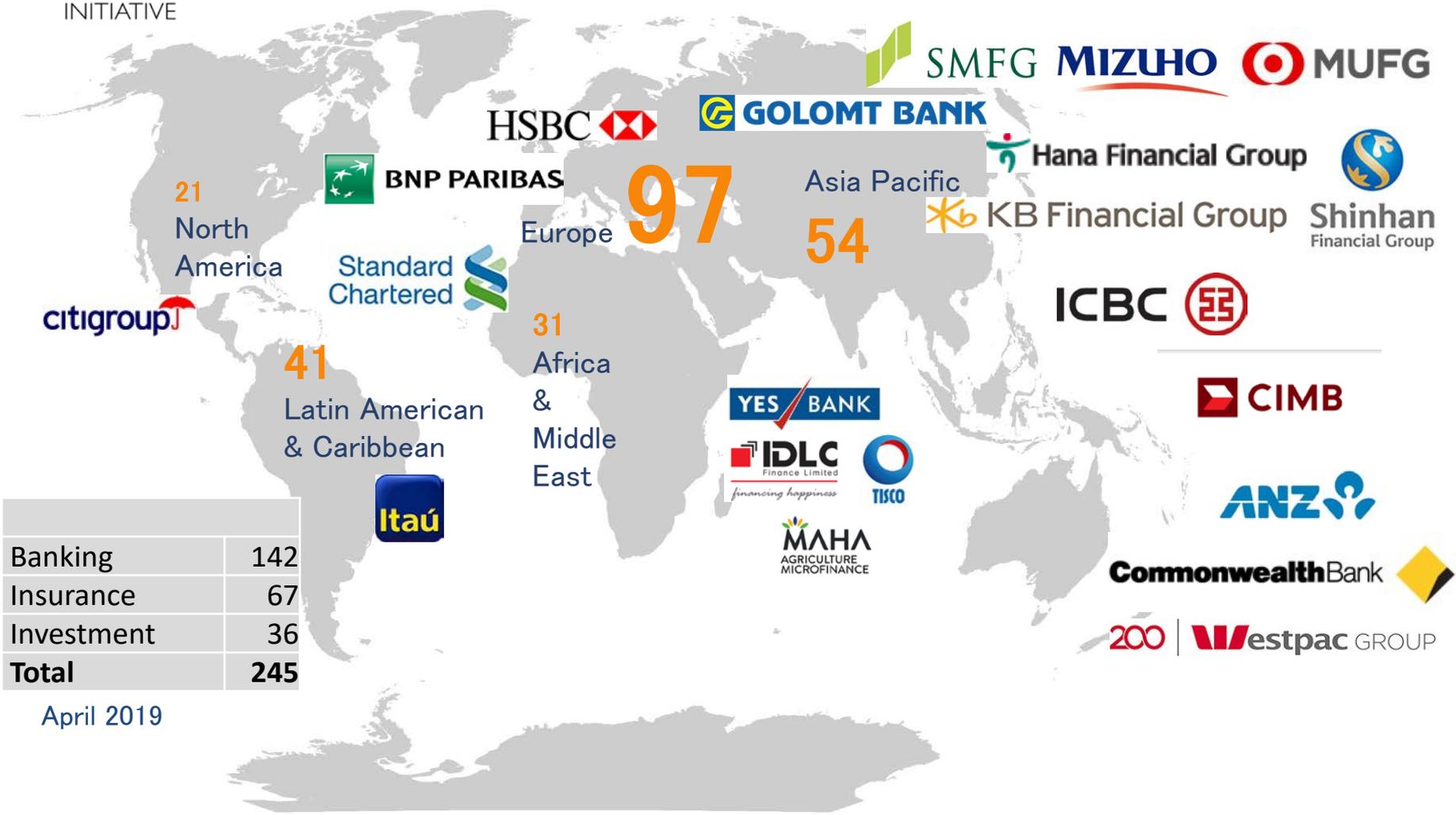


責任銀行原則と ポジティブインパクト金融： サステナブルファイナンスを牽引す る新たな枠組み

国連環境計画 金融イニシアティブ
アジア太平洋地域コーディネーションマネージャー
安井友紀
yuki.yasui@un.org



国連環境計画 金融イニシアティブ (UNEP FI) 署名機関



Banking	142
Insurance	67
Investment	36
Total	245

April 2019



21
North
America

Europe

Asia Pacific
54



31
Africa
&
Middle
East



41
Latin American
& Caribbean



責任銀行原則の基本的な考え方



- 金融仲介機関として、持続可能な経済の発展を支援し、人々がより良い未来を築くけるようにするためには、顧客や広く社会から信頼され、顧客と社会の最善の利益のために責任を持って行動することが求められる。

- 人々の尊厳、平等、そして天然資源の持続可能な利用にもとづくインクルーシブ（包摂的）な社会があつてこそ、顧客ひいては銀行ビジネスが繁栄できる。

***近江商人の「三方よし」（売り手よし、買い手よし、世間よし）**

- リーダーシップを発揮し、商品、サービス、ビジネス上の関係を活用して、現在と将来の世代の共通の繁栄を実現するために必要な経済やライフスタイルの根本的な変化を後押し加速する。

***フューチャー・メーカー（future makers）へ**



131 署名機関

(2019年9月22日時点)

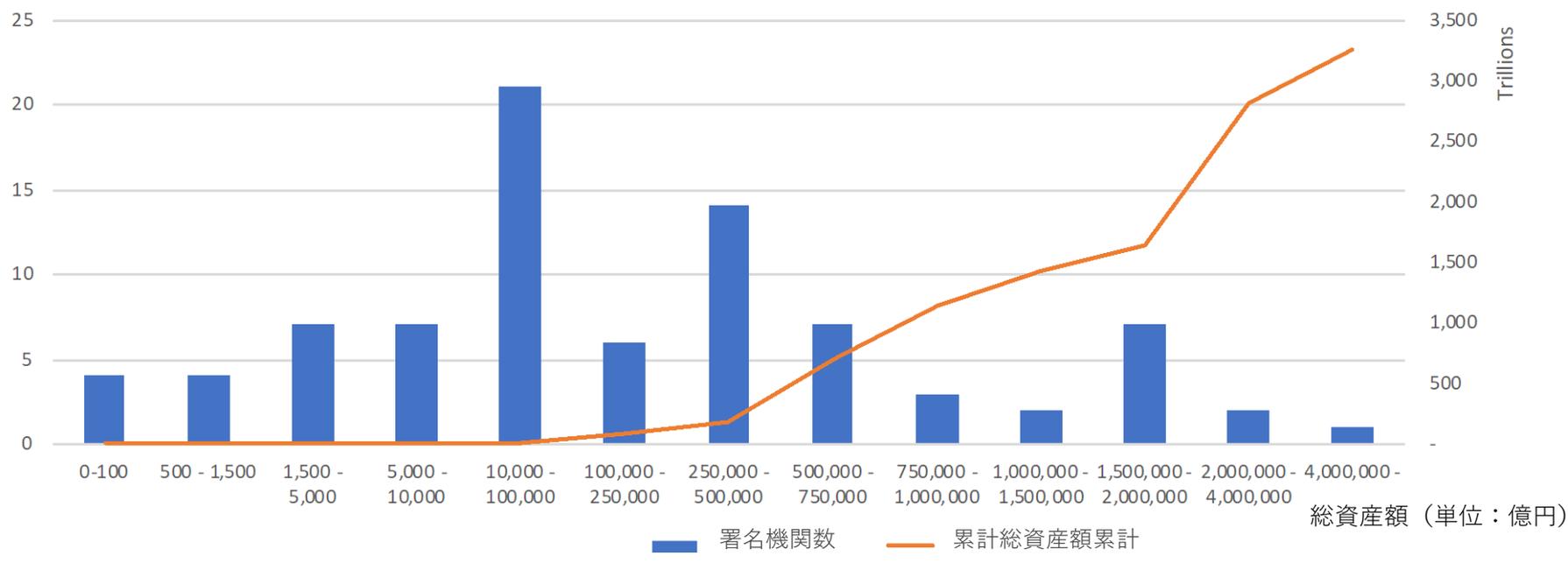


PRB署名機関の資産規模

署名機関数

総資産額累計 (単位：兆円)

PRB署名機関の資産総額分布と総資産総額



責任銀行原則署名式

(2019年9月22日、ニューヨーク国連本部)



責任銀行原則パブリックイベント (2019年9月23日、ニューヨーク、BNPパリバ銀行ビル)



責任銀行原則 6つの原則



原則 1: 整合性 (アラインメント)

事業戦略を、持続可能な開発目標(SDGs)やパリ協定及び各国・地域の枠組で表明されているような個人々のニーズ及び社会的目標と整合させ、貢献できるようにする。



原則 2: インパクトと目標設定

人々や環境に対して、我々の事業および提供する商品・サービスがもたらすリスクを管理しネガティブ・インパクト (悪影響) を低減する一方で、継続的にポジティブ・インパクト (好影響) を増加させる。そのために、重大なインパクトを与える可能性のある分野に関して目標を設定してそれを公表する。



原則 3: 顧客 (法人・リテール)

顧客と協力して、持続可能な慣行を奨励し、現在と将来の世代に共通の繁栄をもたらす経済活動を可能にする。



原則 4: ステークホルダー

これらの原則の目的を更に推進するため、関係するステークホルダーと積極的に協力する。



原則 5: ガバナンスと企業文化

効果的なガバナンスと責任ある銀行としての企業文化を通じて、これらの原則に対するコミットメントを実行する。



原則 6: 透明性と説明責任

これらの原則の個別および全体的な実施状況を定期的に見直し、ポジティブおよびネガティブ・インパクト、および社会的目標への貢献について、透明性を保ち、説明責任を果たす。

原則実施に向けたステップ

- 責任銀行原則では、原則を効果的に実施し、銀行が生み出すインパクトや社会への貢献を継続的に高められるよう三つの主要なステップが求められる。



Step 1:
インパクト分析



Step 2:
目標設定と実施



Step 3:
説明責任

- インパクト分析、目標設定と実施、説明責任の順にステップを踏むことで、署名から4年以内に原則実施の体制を整える。

4年目以降のPRB本格実施に向けたステップ



Step 1:

インパクト分析

署名銀行が、社会、環境、経済に重大なポジティブ・インパクト（好影響）とネガティブ・インパクト（悪影響）を及ぼしている状況を分析する。その上で、銀行が最大のポジティブ・インパクトをどこで実現し、重大なネガティブ・インパクトをどこで低減することができるかを特定する。



Step 2:

目標設定と実施

SMARTの目標を設定し、銀行が特定した重大なインパクトに対処し、その達成に向けて努力する。SMARTは、具体的（Specific）、測定可能（Measurable）、達成可能（Achievable）、関連性（Relevance）があり、期限が定められている（Time-bound）ことを指す。



Step 3:

説明責任

既存の報告書に、責任銀行原則をどのように実施しているかを記載する。原則実施における進捗状況について自己評価を行い、第三者保証を受けてそれらを公表する。

PRB署名後の取り組みイメージ

	1年目 現状把握と計画作成	2～3年目 本格実施に向けた基礎固め
原則 1	<ul style="list-style-type: none"> 自らの業務と関連性のある社会的目標の特定 貢献方法について検討をはじめ 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的目標に関連した戦略的重点分野の特定 持続可能で戦略的なビジネス機会を検討
原則 2	<ul style="list-style-type: none"> 銀行ポートフォリオに対してインパクト分析を試行 重大なネガティブおよびポジティブインパクトを特定 	<ul style="list-style-type: none"> インパクト分析の結果にもとづいてネガティブおよびポジティブインパクトへの対応状況を把握、改善の戦略を練る。
原則 3	<ul style="list-style-type: none"> 重大なインパクトに関連して顧客が持続可能でレジリエントなビジネスモデルに移行し新しいビジネスチャンスを獲得する方法を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成に向けて協業すべき顧客を特定、質問事項等をまとめ、エンゲージメントを開始する
原則 4	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーへのエンゲージメントを始めるにあたり計画を練る 	<ul style="list-style-type: none"> 戦略に従いステークホルダーに対して体系的にエンゲージメントを行う。 社会のニーズにいかに関与できるかを検討
原則 5	<ul style="list-style-type: none"> PRB実施に際して組織内のガバナンス構造が適切かどうかを検討する 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な原則実施のために組織内のガバナンス構造やプロセスを改善する
原則 6	<ul style="list-style-type: none"> 報告テンプレートを活用し現時点で可能な範囲内で情報を入力してみる 	<ul style="list-style-type: none"> 目標やKPIなどを含め原則実施における現時点での達成状況を報告、自己評価を行う

原則実施を支援するツール

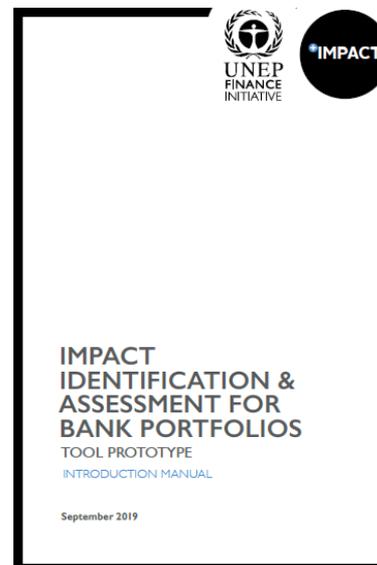
手引書（ガイダンス・ドキュメント）

- 原則実施の参考となる手順・手法・事例など



インパクト特定ツール及びマニュアル

- ポジティブ・インパクト・イニシアティブとの連携で開発中。



ポジティブ・インパクト・イニシアティブ

SDGs達成のために、環境・社会・経済の3つの側面を検討し総合的にどのような貢献ができるか（インパクトを生み出せるか）という点を中心に据えて考えられたビジネスモデルを推進するUNEP FIのイニシアティブ

ポジティブインパクト金融原則



原則1 定義

ポジティブ・インパクト金融はポジティブ・インパクト・ビジネスのための金融である。

持続可能な開発の3つの側面（経済、環境、社会）のいずれかにおいて潜在的なマイナスの影響が適切に特定され緩和され、なおかつ少なくともそれらの一つの面でプラスの貢献をもたらすこと。

ポジティブ・インパクト金融は、このように持続可能性の課題を総合的に評価することから、持続可能な開発目標（SDGs）における資金面での課題に対する直接的な対応策の一つとなる。

原則2 枠組み

ポジティブ・インパクト金融を実行するには、事業主体（銀行、投資家など）が、それらの事業活動、プロジェクト、プログラム、および/または投融資先の事業主体のポジティブ・インパクトを特定しモニターするための十分なプロセス、方法、ツールが必要である。

原則3 透明性

ポジティブ・インパクト金融を提供する主体（銀行、投資家など）は以下の点について透明性の確保と情報開示が求められる。

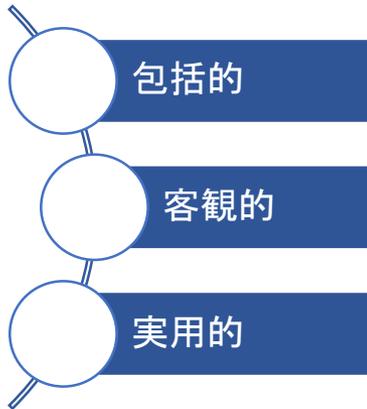
- ポジティブ・インパクトとして資金調達した活動、プロジェクト、プログラム、および/または投融資先の事業主体の意図したポジティブ・インパクトについて（原則1に関連）。
- 適格性を判断し、影響をモニターし検証するために確立されたプロセスについて（原則2に関連）。
- 資金調達した活動、プロジェクト、プログラム、および/または投融資先の事業主体が達成したインパクトについて（原則4に関連）。

原則4 評価

事業主体（銀行、投資家など）が提供するポジティブ・インパクト金融は、意図するインパクトの実現度合いによって評価されなければならない。

インパクト分析のフレームワーク

特徴



* 資金用途を限定しない事業（事業融資や証券投資など）



* 資金用途限定の事業（プロジェクトファイナンスなど）



* 不動産投資

特定

対象となる事業やプロジェクトからもたらされるインパクトを特定

評価

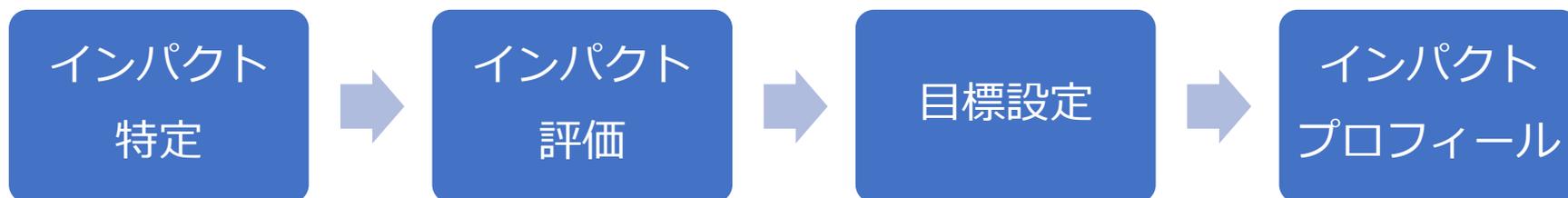
どのようなインパクトが達成されたかその成果を評価

モニタリング

インパクト特性にもとづき成果向上のための改善を検討

PRBの実施を支援

銀行ポートフォリオ用 「UNEP FI インパクト特定ツール」





インパクト特定

		経済	環境	社会
		(収束, インクルーシブ で健全な経済,...)	(気候, 土壌 ,...)	(住居, 教育 ,...)
農林水産業	ポジティブ インパクト			
	ネガティブ インパクト			

組みツール:

- セクター +/- インパクトマップ**
 ISIC業界分類コードに基づいた各セクター・活動の+/- インパクトを「IFC EHS(環境・健康・安全)ガイドライン」などの情報を基に、UNEP FIインパクトレーダーに変換
- 業界分類コード変換機能



インパクト特定 銀行ポートフォリオのインパクト・マップ

国別およびポートフォリオセグメント（リテールおよび法人顧客）別
自動的に生成される銀行の主要インパクト分野のマップ

I. インプット 銀行の特性

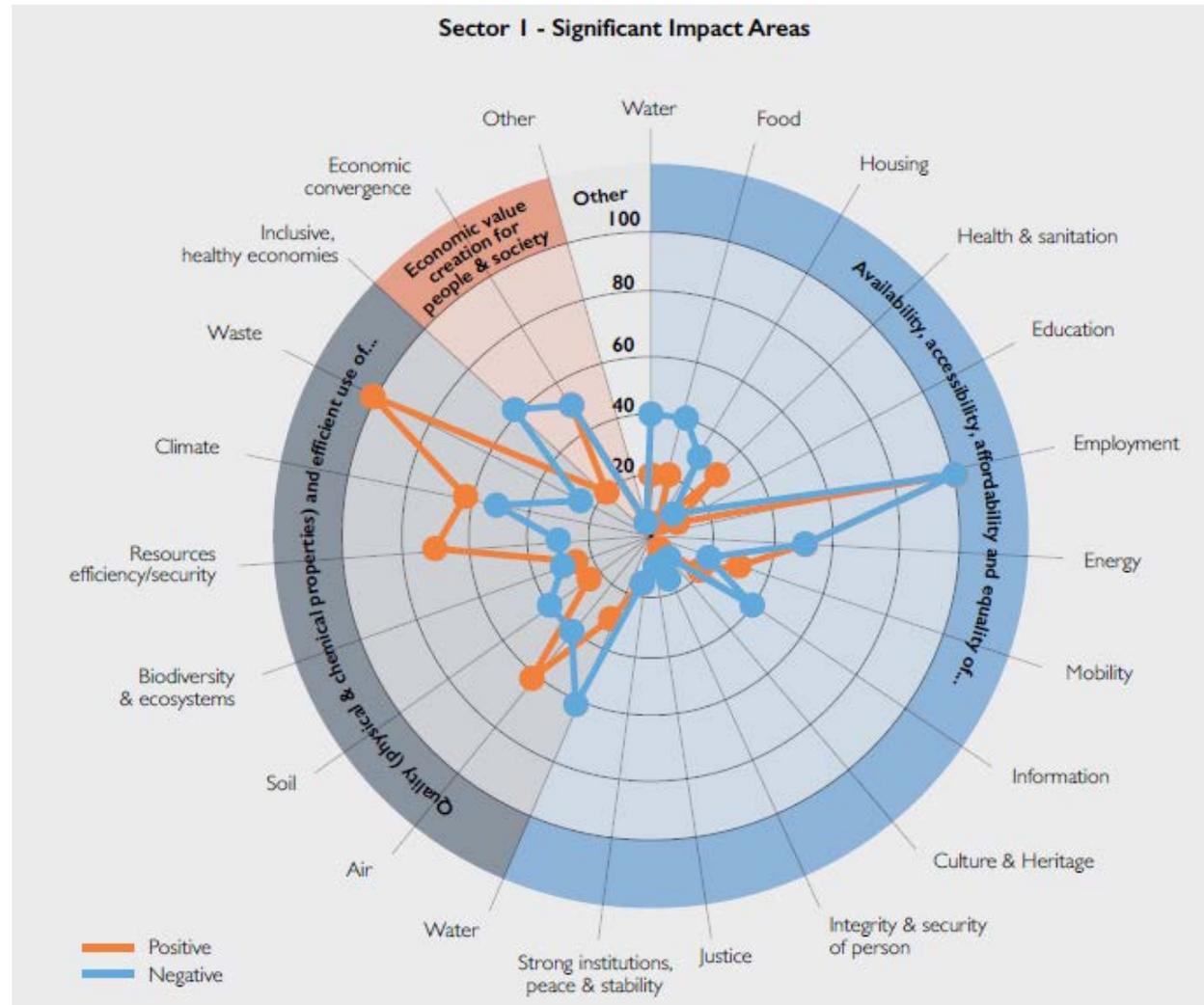
- 種別や規模
- 業種
- 活動地域

II. 組み見込みツール セクターごとのインパクト を及ぼす分野

- ± インパクト

アウトプット

- インパクト分野をプロット



インパクト評価と目標設定

評価基準

I. ネガティブインパクト

- マイナスのインパクトを優先

II. 国・地域別のインパクト・ニーズ

- ニーズの最も大きな分野を優先
- 「インパクト特定ツール内」の国別インパクトマップ

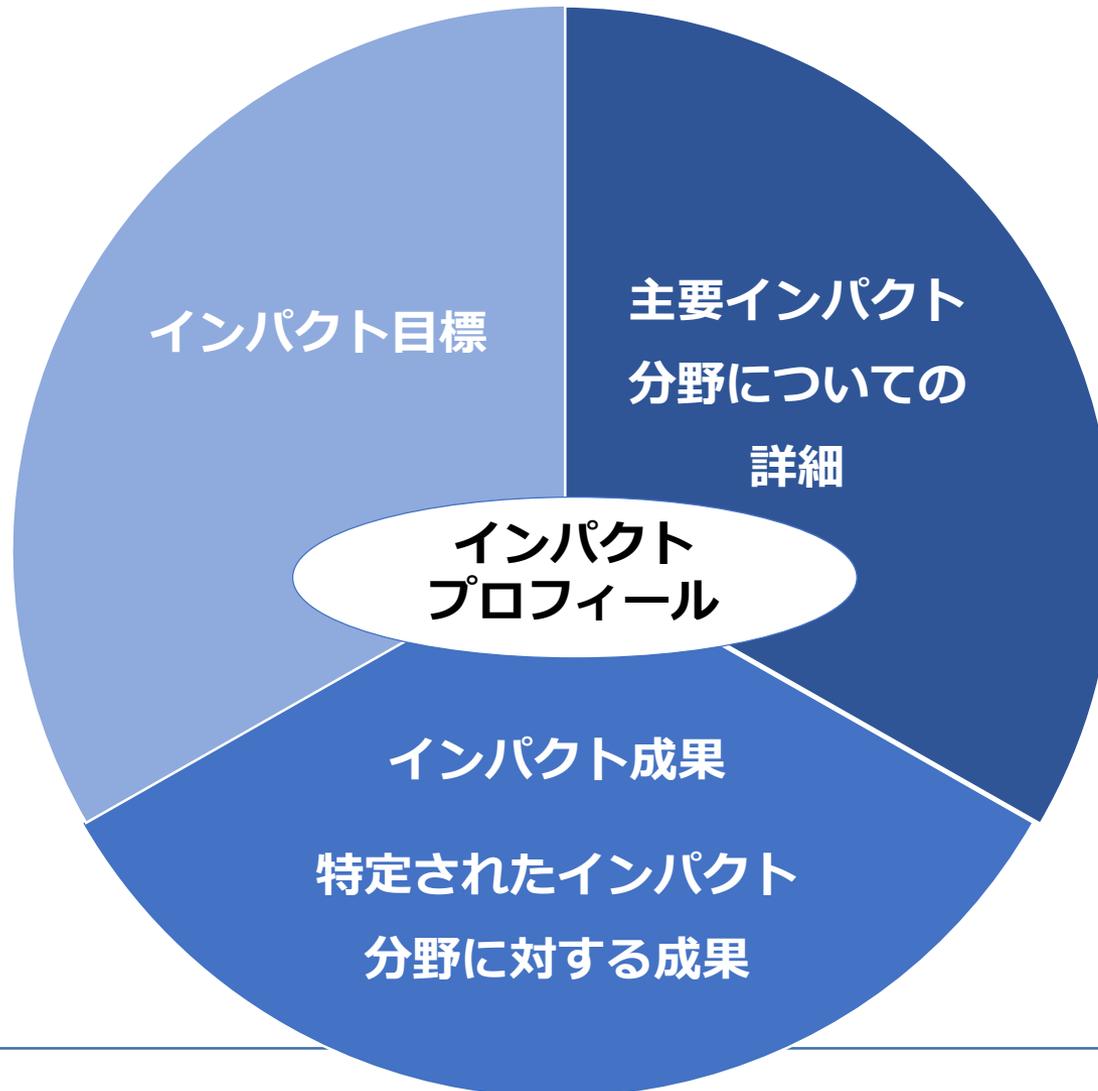
III. インパクトの成果

- 相対的に成果の弱い分野を優先
(国内外の政策目標や他社などと比較)

目標設定

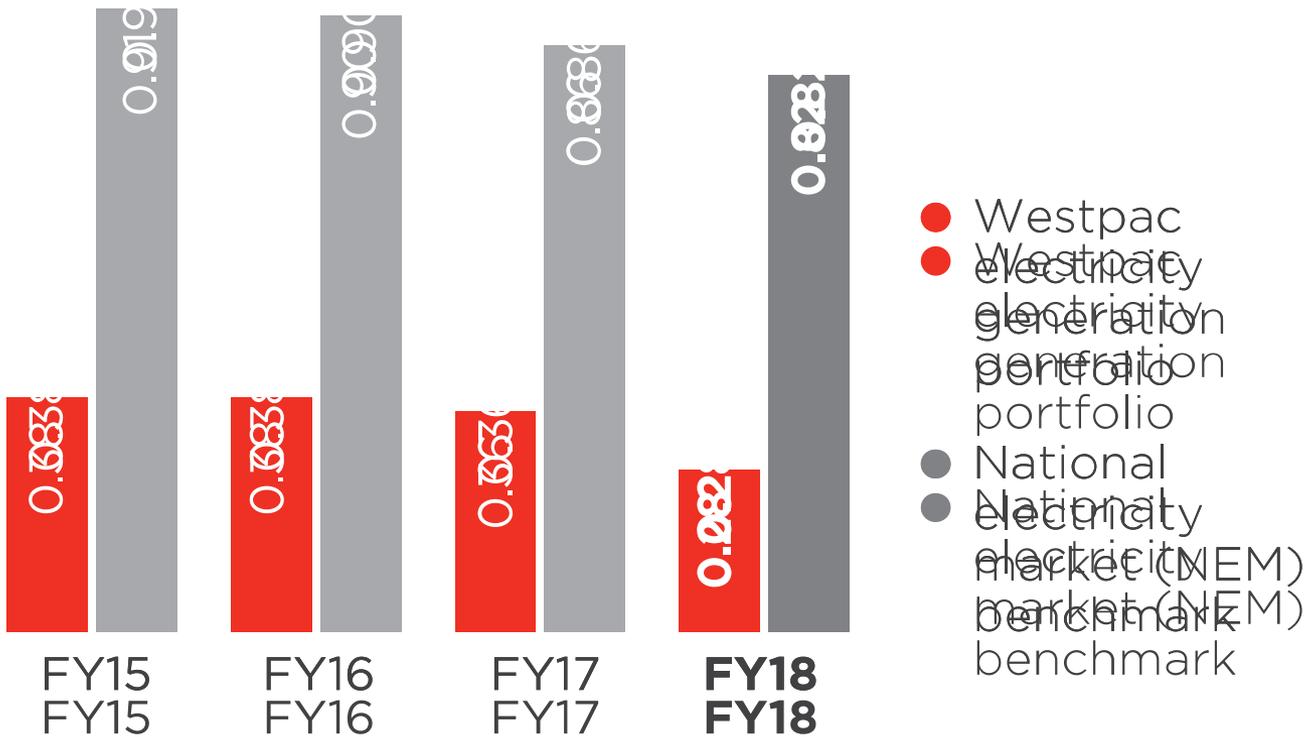
	水質、食育、雇用などへの十分なかつ手頃な価格でのアクセス	
	ポジティブ	ネガティブ
指標 e.g. GHG emissions		
基準 e.g. Co2, SoX, NoX, etc.		
単位 e.g. metric tonne, square meter, etc.		
パフォーマンス数値		
目標数値		

インパクト プロフィール



目標設定 – Westpac銀行の事例

FINANCED EMISSIONS (tCO₂-e/MWh)²



Emissions intensity of our lending is well below the market benchmark and ahead of our 2020 target (0.30 tCO₂-e/MWh)

目標設定 - ING銀行の事例

グリーン住宅ローン

- INGのローンポートフォリオの半分は住宅ローンで構成
- 住宅部門はオランダのCO2排出量の約20%を占める
- INGの3大市場であるオランダ、ベルギー、ドイツから取り組む。

ベースライン

INGの住宅ローンポートフォリオの約55%はエネルギーラベルがDおよびGの住宅（Gは最低スコアで、1980年以前に建設された住宅は通常D以下）

目標

長期目標= INGの住宅ローンポートフォリオをエネルギーポジティブにする（2050年まで）

短期目標= 2022年までにDおよびGスコアの住宅の少なくとも50%をCにアップグレードする

アクション

住宅のオーナーが住宅をより持続可能にするための製品やツールおよびサービスを開発する

- 無料のオンラインエネルギースキャン
- エネルギーラベルDおよびGの住宅に対して、エネルギーの専門家との30分間のビデオ電話での相談サービス
- ING住宅ローン顧客向けの個人向けグリーンローン。金利は通常のローンよりもはるかに低い3.9%に固定